

# あ・そうかい通信

Vol.20

## 運営委員インタビュー

平成から令和に時代が変わった今年度も、さまざまな活動で大いに盛り上がった「あ・そうかい」。その活発な活動を支えてきたのが、会の先導役を務める運営委員会だ。そこで、年度末の任期満了を控えた運営委員有志に、この一年の感想を聞いてみた。

◆1年間で印象に残ったことは？  
吉田 やっぱり文化祭ですね。は

じめて「やまゆり」でやるというところで、不安だったのは経費です。でも、フリーマーケットやカンパでだいぶ集まり、資金ができました。もうひとつ、せっかくやまゆりでやったのに、うまくいかなかったら困るなというのもプレッシャーでしたけど、皆さんに参加していただいて、それなりに成功したかなと思っ

中山 文化祭も楽しかったし、分

科会活動も活発に行われていて、「あ・そうかい」って素晴らしいということを、運営委員になつて実感しました。夜の「@さろん」も、やめた方がいいんじゃないかと思つていたんですけど、実際に(運営委員として)やってみて、「なかなかいいじゃない」という感想を持ちましたね。皆さん、ほんとに協力的で、90歳の田中さんが運営委員をおやりになったのも素晴らしいと思います。

◆運営委員会からの発信も活発

中山 会の行事のお知らせを行き渡らせようということで、はじめ皆さんへの一斉メールを送りました。皆さんにお知らせすれば参加率も上がるのではという思いでやりましたが、好評だったと思います。そして、今度はそれを「グーグル・グループ」で発信することになりました。次年度からも情報を広めていけばと思います。



2020年の新年会、運営委員が揃えた豪華賞品が当たるBINGOゲームで盛り上がりました

◆これからどんなことをやっていくべきか、ご意見を。  
牧野 新しいイベントを掘り起こしたいですね。今までやっていなかったようなことをみんな考えてはどうでしょう。

吉田 みんなで旅行に行ったらどうでしょう。か。日帰りでもいいので、バス旅行を検討しましょう。

◆「あ・そうかい」の魅力とは？

吉田 同世代が集まっているから、話が合う。そこがなんともいえない魅力ですね。

中山 地域の知り合いが増えるのが一番です。

牧野 いろんな人に会えるというのが、すごくいいなと感じています。

吉田 最後に一点。「あ・そうかい」はいろいろな面で突出した存在になってきているので、節度を持って活動していきましよう。

## 魚眼。複眼

@ジャズで上治さんから、お借りした「ケン・パーンズ・ジャズ」CD 10巻は、アメリカの歴史にジャズが深く関わっていることを教えてくれる。

そのCDのなかで、多くの名曲を作曲したデューク・エリントンが、一番の作品は何ですか？という問いかけに、「明日、作る曲だ！」と答えたというエピソードがある。

また、日本一の美女と呼ばれた女優山本富士子は「今の自分が一番好きといえる自分でありたい」と語り、メイ・サートン(詩人)は「私から年齢を奪わないでください。この年齢は私が働いてようやく手にしたものですから」と書く。

今、「あ・そうかい」のメンバーに「20歳の若い時に戻りたいですか？」と尋ねたら、何と答えるでしょうか。

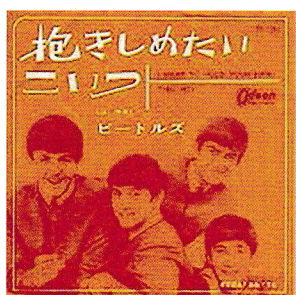
たぶん、多くの分野で活躍しているメンバーが多いので、いろいろな経験を積み重ねてきた今の自分が好き「単なる若さの時代に戻りたくない」と答える人が多いのではないのでしょうか。

私の音楽放浪記



がなるようなコーラス、シンメトリーのバンドスタイル、見たこともないメーカーのエレキギター、マッシュルームのような長い髪。どれもとつても今までにないバンドスタイル。もちろん楽曲もそれまでの洋楽にはないオリジナリティー。中学1年生の私の心を文字通り驚掴みにしたのはザ・ビートルズでした。

1964年2月、立て続けに日本でリリースされたのは「抱きしめたい」「プリーズ・ミー」。そして2ヶ月後の4月には「シー・ラブ



原題は「I Want to Hold Your Hand」

ズ・ユー」と「キャンント・バイ・ミー・ラブ」が同日リリースされました。今考ええると神業ともいえる早さでのリリース、しかもそのすべてがヒット曲。こんなことがかつてあったのかというほどの怒涛の勢いに、私は完全にノックアウトされてしまいました。振り返ってみると、私のような少年少女が世界各国で数千万人、いやもしかすると数億人の瞬間に地球上に誕生したのかもかもしれません。



中島泰志

この1960年代初頭は洋楽の大変換期だったようで、英国ではザ・ビートルズが誕生、洋楽の本場アメリカからもザ・ベンチャーズをはじめとするエレキサウンドが日本に上陸しました。このエレキブームは瞬く間に日本全国の新しいものの好きの音楽大好き少年に感染していきました。もちろん私もあつという間に感染。お年玉を握りしめた中島少年は近所の馬込銀座商店街のレコード店の店頭にあった



1964年春に同時リリースされた「シー・ラブズ・ユー (She loves you)」と「キャント・バイ・ミー・ラブ (Can't buy me love)」



1963年リリースの「Please Please Me」B面は「Ask Me Why」



朗読会の様子



やまゆり楽芸会にも出演

朗読劇は、楽しんででもらえることを第一に作品を選び、衣装やメイクも考えたりするのも楽しく、ちよつとした芝居気分になれます。

朗読劇は、楽しんででもらえることを第一に作品を選び、衣装やメイクも考えたりするのも楽しく、ちよつとした芝居気分になれます。

芝居から朗読へ



松崎 朝子

私は市民劇団に所属していましたが、寄る年波に勝てず(台詞は覚えられず、稽古には疲れ果て)朗読と朗読劇に移行しました。

台本を見ながらの動きは安心感があり落ち着いて読めます。文字で表現された作品を声で表現することが、自分には向いているようで楽しく、今は朗読一筋です。とは言え、作者の作品に込めたイメージを把握して、相手に伝える難しさを実感しています。何回も読み込み、作者や登場人物の視点に立つて考えてみることで、場面の状況などイメージしながら読むことが大切だと思っっています。作品のなかに入り込むよつな感じになります。

会員さんからの  
「お薦め」情報